

令和7年度 丸内中学校校内研究

1 研究主題

共に学び合い深め合いながら、主体的に表現する生徒の育成

～学習用端末の効果的な活用を通して～

2 経緯と主題設定の理由

本校は、令和2年度から4年度の3年間で「聴くこと」、令和5、6年度では、この3年間の学校研究を土台として、「聴き合うこと」「伝え合うこと」を大切にしながら、主体的に表現できる生徒の育成を目指して、様々な取組を行いながら、学校研究を進めてきた。中でも、生徒に学習のゴールまでの見通しを持たせ、学習への目的意識や必要性を持たせる「単元見通し学習」については、学校全体で共通認識のもと取り組んできたことで、定着を図ることができ、生徒の学習意欲の向上につなげることができている。

また、昨年度の初めに「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるということの意味を職員全体で共有し、年間を通しての取組を考え、実践を積み重ねていくことを大切にしてきた。個別最適な学びにおいては、生徒の興味・関心や力に応じて異なる目標を設定（学習の個性化）して取り組ませたり、一定の目標を全ての生徒が達成することを目標として、異なるアプローチの仕方での学習を進めていけるような課題を設定（指導の個別化）したりするなどの工夫を凝らしてきたことで、生徒の方から多様な考えを引き出すことに成功した。また、その際、学習用端末で Qubena や SKY Menu Class の発表ノートの資料置き場、Geogebra、Padlet などの様々な学習用端末を用いて、難易度別学習に取り組んだり、数ある資料の中から好きな資料を選択しながら学習を進めていったりするなど、自分の興味・関心や力に応じて調整する姿が見られた。しかし、このような成果が見られる一方で、協働的な学びにおいては課題が見られた。協働の場面では、ペアやグループで学習をした後、全体交流にも時間を使い、生徒同士の多様性を生かす場面を設定することの徹底が不十分であったり、ペアやグループでの活動で会話が弾んだことでその後のタイムマネジメントが上手くいかなかったりするなど、全体共有に十分な時間を割くことができないこともあった。また、全体交流の場を設けても、自分の考えに自信を持たずに受け身になってしまい、積極的に自分の考えを表現することができていない生徒も多かった。

以上のことを踏まえて、今年度は、授業の中で、個別最適な学びや協働的な学びを一体的に充実させていく中で、友達の意見に傾聴し共感することで自分の考えを再構築し、そして主体的に表現できるようになる生徒の姿に期待したい。そのためにも、生徒同士の共感的な人間関係の育成を図っていくことが必須であると考え。これらのことを踏まえて、研究主題を表題のように設定した。また、授業づくりの視点として、下記の3点を設定して取組を進めていくことにした。

【授業づくりの視点】

①主体的に学びたくなるような授業

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための単元を見通した計画を考え、実施する
- ・ 学習用端末を効果的に用いた授業づくりを行う

②「学び合い」「深め合い」がしたくなるような授業

- ・ 生徒指導の4つの視点に基づいた「丸中学びの心構え」を徹底する
- ・ 生徒に選択させる場面を設け、教師は授業をコーディネートしながら生徒のつまづきを見取る

③自己の学習を振り返り、学びを実感できる授業

- ・ 単元等のまとめりを見通した指導を計画し、次時につなげる
- ・ 学習したことを用いて振り返りを行うことで、学びの自覚化を促す

3 研究構想図

○学校教育目標

心身ともに健康で、自主自律の精神に富み、
人間性豊かな丸中生徒の育成

○めざす生徒の姿

自主・自律・活力ある丸中生徒

- ・主体的に学習や活動に取り組む生徒 自主
- ・自らを律し、他と協調し、心を通わせることができる生徒 自律
- ・進取の気性に富み、たくましく生きる心身を持った生徒 活力

○学校経営目標

- ・心身ともに健康で、豊かな人間性の育成
- ・確かな学力の育成、主体的・対話的な深い学びの実現・積極的な生徒指導の推進
- ・教育力・学校組織力の向上

【研究主題】 共に学び合い深め合いながら、主体的に表現する生徒の育成
～学習用端末の効果的な活用を通して～

B 学びの基本づくりチーム

A 授業改革チーム

単元見通し学習

スキルタイム

テストの
分析

視点①

主体的に学びたく
なるような授業

学習用端末を効果的に用いた授業づくりの工夫

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

共に学び合い深め合いながら、主体的に表現できるように！

視点②

「学び合い」、「深め合い」がしたくなるような授業

視点③

自己の学習を振り返り、学びを実感できる授業

家庭学習指導の工夫

見取りと適切な指導・支援の工夫

振り返り活動の充実

帯タイムの活用

Qubenaの取組

学習アンケートの提案・実施・分析

土台づくり

丸中学びの心構えの徹底

道徳教育・特別活動の充実

生徒会・リーダー会との連携

家庭・地域との連携

4 研究方針

(1) A 授業改革チーム

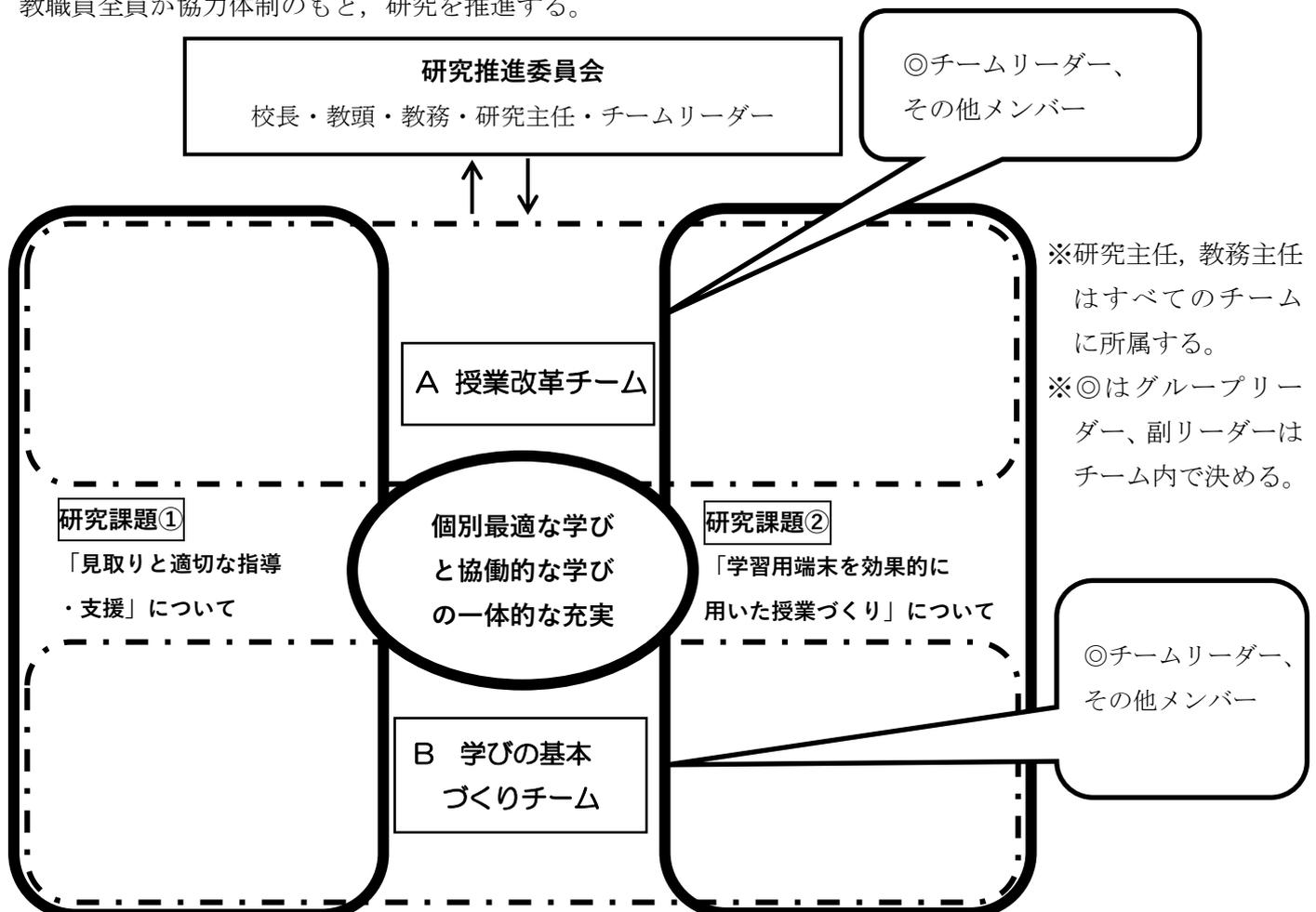
- ・丸中スタイルの確立
→丸内中授業づくりの視点に沿った50分の持ち方の再考, コーディネートの仕方の検討(発問等)
 - ・ペア・グループ活動の充実
- ・単元を見通した授業づくり(単元見通し学習)の工夫
- ・各教科の視点に応じた振り返りシートの実施について
- ・スキルタイムの実施について
- ・生徒指導の4つの視点に基づいた「丸中学びの心構え」を意識した授業づくりの工夫
- ・授業オリエンテーションの企画・実施
- ・成果物の掲示について
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての取組
→「見取りと適切な指導・支援」と、「学習用端末を効果的に用いた授業づくり」の工夫

(2) B 学びの基本づくりチーム

- ・家庭学習指導の工夫
→自学ノートの質の向上のための取組, 家庭学習の定着に向けた取組, テスト勉強指導の充実, 成果物の掲示について
- ・学習アンケートの提案・実施・分析(PDCAサイクル)
- ・定期テスト, 学力調査等の分析
- ・Qubenaの取組
- ・帯タイムの取組

5 研究組織

教職員全員が協力体制のもと, 研究を推進する。



丸中学びの心構え

『丸中学びの心構え』

- ・ 自分の考えをもち、根拠をもとに伝えよう
- ・ 比較しながら聴き、自分の考えを広げよう

話し合い活動で意識して欲しいこと

- ①聴く … 正しい意見，間違った意見，色々な意見があるが広い心で受け止める。
ただ聞くのではなく，話している人の方を向き，相手がどんな思いで発言しているか考えながら聴く。
- ②考える … 聴いたことに対して自分なりの考えをしっかりともつ。
- ③話す … 考えを発表する際に理由・根拠も言う。また，一方的に話すだけでなく，聴いてくれている人の方を向き，理解しやすいように工夫して話す。

その他，学びの基盤となる授業のルール

- ・ ベル礼（チャイムとともに授業を始める） ・ きちんとした礼・挨拶
- ・ 正しい姿勢・服装で授業を受ける。

掲示方法

- ・ 上記の  を，学年掲示板（各フロア1組の前にある大きなもの）に掲示する。

全校周知の方法

- ・ 全校生徒，全教職員を対象として，生徒会と連携して，授業オリエンテーション形式で行う。
- ・ 授業オリエンテーションでは，本年度の授業で共通理解したいことの確認をする。

Q.縄文時代から弥生時代にかけて大きく変化したものは何だろうか？

視点
なぜこのような変化が起きたのか？★



社会科の授業を例として、「丸中学びの心構え」について，意識したいポイントを押さえていく。

丸中学びの心構えの2つめ

「比較しながら聴き、自分の考えを広げよう」

相手の意見を尊重する

自分と友達の見解を比較しよう

【R6年度の
授業オリエンテーションの様子】

